

今回の題材は『火の鳥』。

生命の尊厳を問いかけるこの作品が
珈琲で表現されます。



手塚治虫作品の中でも難解とされる「火の鳥」を珈琲で表現するために、
約30軒の珈琲屋が宝塚に集まります。

難解な作品をそれぞれの珈琲屋がどのように解釈し、
珈琲としてどのように表現されるのか、その挑戦をぜひ体験してください。

物語は、
過去と未来の時代を行き来しながら進む
全12編。



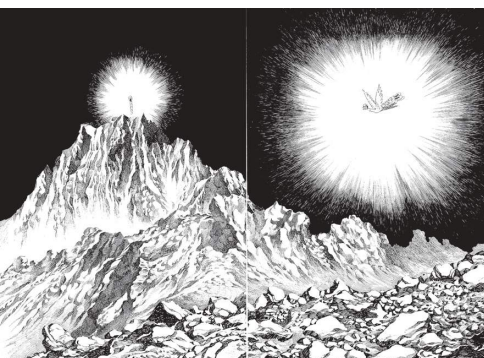
黎明編



ヤマト編



鳳凰編



復活編

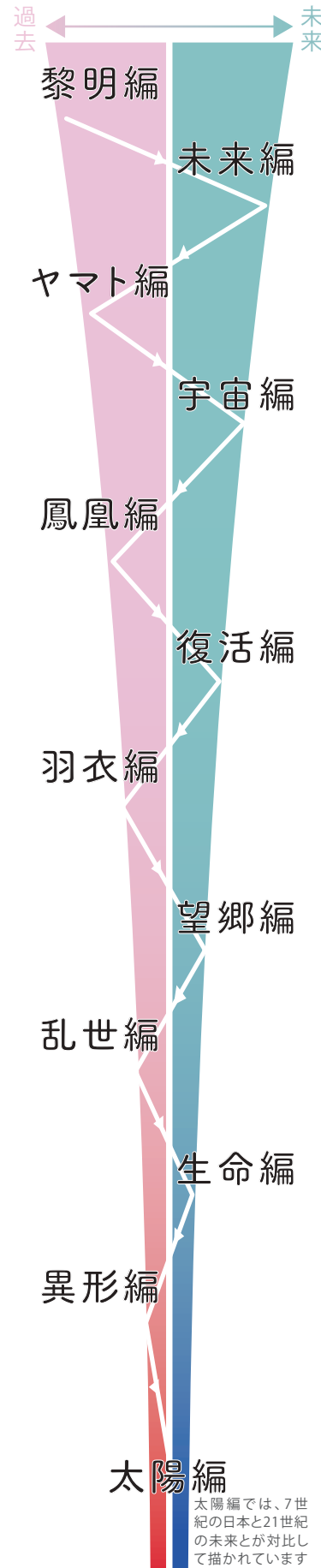


未来編



宇宙編

私はあれ以来、鳥の姿をさがしつづけている
あの鳥は おそらく超生命体の一種だったの
だろうと思う
宇宙生物は人間型にしる 非人間型にしる
かならず肉体を持つている
肉体がない つまり非物質化された生物は
一種のエネルギー体だ
そうすると それは もう生物とはいえない
宇宙には そのような超生命体が
実際に存在していることを講義で聞いた
エネルギー波を作用させて
自分をどんな姿にも見せることができるのだ



羽衣編



乱世編



望郷編

私の名は「火の鳥」
鳥とはいっても
それは人間の目から
私を見て
鳥に見えるだけです
私の本体は
そう……
宇宙にみなぎった
生命のエネルギーの
ちよつとした
かたまりのような
ものかしら……



生命編



異形編



太陽編